|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
| プラタナスの木 |  | 平成２７年１１月６日  表現活動発表会 　劇  　○○小学校　△年  （　　　　　　　　） |
|  |  |  |

　配役　６人用

　　マーちゃん　A児

　　花島君　B児

　　クニちゃん　C児

　　ｱﾗﾏちゃん　D児

　　ﾅﾚｰﾀｰ１・おじいさん　E児

　　ﾅﾚｰﾀｰ２・マーちゃんのお父さん・ようせい　F児



台本

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 役 | せりふ | 道具 |
| ﾅﾚｰﾀｰ１  ｱﾗﾏちゃん  ﾅﾚｰﾀｰ２  マーちゃん  クニちゃん  花島君  ｱﾗﾏちゃん  花島君  ｱﾗﾏちゃん  マーちゃん  クニちゃん  花島君  ｱﾗﾏちゃん  花島君  ﾅﾚｰﾀｰ２  クニちゃん  花島君  マーちゃん  ｱﾗﾏちゃん  クニちゃん  ﾅﾚｰﾀｰ２  花島君  花島君  ４人  ﾅﾚｰﾀｰ２  おじいさん  マーちゃん  クニちゃん  ｱﾗﾏちゃん  花島君  おじいさん  ｱﾗﾏちゃん  おじいさん  マーちゃん  ようせい  ｱﾗﾏちゃん  クニちゃん  花島君  おじいさん  花島君  おじいさん  ｱﾗﾏちゃん  クニちゃん  マーちゃん  ﾅﾚｰﾀｰ２  クニちゃん  花島君  ｱﾗﾏちゃん  マーちゃん  マーちゃん  おじいさん  マーちゃん  おじいさん    ５人  マーちゃん  B児  E児  D児  C児  F児  マーちゃん  B児  E児  D児  C児  F児  D児  マーちゃん  お父さん  マーちゃん  お父さん  ﾅﾚｰﾀｰ１  クニちゃん  花島君  マーちゃん  ｱﾗﾏちゃん  クニちゃん  花島君  ｱﾗﾏちゃん  マーちゃん  ようせい  マーちゃん  花島君  ようせい  花島君  おじいさん  ｱﾗﾏちゃん  クニちゃん  マーちゃん  花島君  女子三人  ①E児  　B児  ②D児  　C児  ③A児  　Ｆ児 | マーちゃんといつも遊んでいる仲間は、せいの高い花島君とハイソックスが好きなクニちゃん。それに、アラマちゃんだ。本当は荒井さんというのだけれど・・・、口ぐせが  あらま。（ポーズ）  だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。三年生になって、クニちゃんが転入してきて、仲良し4人組になったんだ。  （ナレーターの二人と花島君は、舞台そでへ）  遊びにいこうよ。  いいよ。  （そでから出てくる）待たせてごめん。  あっ、くつが片足ずつちがっている。  えっ。　アチャー。  あらま。おかしいね。（ジェスチャー）  わたしたちが集まるところは川ぞいの公園で、バスケットコートぐらいの広さしかないんだ。（ジェスチャー）  公園は、何もうえられていないかだんでかこまれていて、古い大きなプラタナスの木が一本だけ生えているので、プラタナス公園とよばれているよ。（ジェスチャー）  中学生や幼児連れの母親などはめったに来ないから、自分たちの遊びができるんだ。  水飲み場があるのも助かるけれど、何よりうれしいのは、この公園では、ボール遊びができることなんだ。（ポーズ）  学校や他の公園では、ボール遊びは禁止なんだ。（×ポーズ）  最近熱中しているのは、サッカー。リーダーはクニちゃんだ。  （４人）ワーイ、ワーイ  すね当てを入れるぞ。  この前、野球のコーチにバットのグリップですね当て入れられて、いたかったからな。それは大事だぞ。  ｱﾗﾏちゃん、二人でゴールキーパーをしよう。  （向かい合って・・・）いいよ。  花島君、ドリブルやパスをしてせめよう。  かだんとかだんの間に２メートルぐらいの空間があって、そこがゴールだ。  （４人で、シュートを打つまでのげきをする。）シュートだ！  つゆ明けのころからだろうか、プラタナスの木の下にある、古い小さなベンチにおじいさんがやって来て、にこにこしながら、ぼくたちのサッカーをながめているようになった。  雨がやんだから、サッカーしよ！→（４人でサッカー）  試合が白熱してくると、ときどきパスやドリブルのコースが外れて、プラタナスの木の下にボールが転がっていくことがある。  （おじいさんは、こしをかがめてボールを大切そうにつかみ、そのままじっとしている。）  こうしていないと、どっちかが有利になってしまうかもしれないからね。（笑）  みんな水をもっとたくさん飲んで、少し日かげに入って休まないと熱中症になるよ。（ポーズ）  お気づかいありがとうございます、そうします。おいでおいで  のどがかわいて、つかれたね。やっぱり夏は、麦茶だね。  あらま。こんなところに日かげができていたんだ。  プラタナスの大きな葉っぱのおかげだな。  このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。  あらま（ポーズ）。木がさか立ち。  さか立ち出来る人いるかな。（三人が手をあげる。ハーイ）  わたしは、木に向かってしてみるね。  わたしは木のようせい。見ていられないわ、手伝ってあげる。  クニちゃん、ささえてくれる。  いいよ、してあげるよ。（二人は、さか立ちをしてみる）  ぼくもしたい、したい。おじいさん、手伝って下さい。  よっ、こらしょ。やってやろうか。（さか立ちをする。）  そう。この木がさか立ちするだろう。すると、木のみきや枝葉と同じくらいの大きさの根が出てくるんだよ。木というのは、上に生えている枝や葉をささえるために、土の中でそれと同じくらい大きな根が広がって、水分や養分をおくっているんだ。  きついです。下ろして。どの木も、みんなそうなんですか。  たいていの木は、大きな根が地面の下にぎっしりと広がっているのさ。だから、このプラタナスの木が公園全体を守っている、といってもいいくらいだ。もし、地上のみきや枝葉がなくなったら、根は水分や養分を送れなくてこまってしまうんだ。  あらま。  ふうん。木の根がこまってしまうなんて初めて聞く話だ。  おじいさんは、公園ができるずっと前からプラタナスのことを知っているみたいだね。もうこんな時間だ、帰ろう。（歌）  夏休みに入るとすぐ、花島君とクニちゃんはお母さんのふるさとに帰省した。  （走って、二人登場する）  わたしは、□□でレンコン作りをしてみようと思っている。  ぼくは、甲子園目指して野球の練習だ。  （フラダンスをしながら、登場）  わたしは、家族とハワイへ海外旅行に行くよ。  一人のこってしまった。仕方がない、一人でプラタナス公園に行くか。  おじいさん、こんにちは。  こんにちは。元気かい。ベンチにお座り。  暑いですね。自分ももうすぐお父さんのふるさと｢○○｣に行くので、夏休みが終わったら、またみんなで来ますね。  お父さんのふるさとの○○には、木がいっぱいあるだろう。  （カーテンを開ける）  みんなによろしく。  （まくをしめる）  （まくがしまった後、ベンチとプラタナスの木をそでに移動させる）  （まくを開ける）→（５人は、ぶだいに並ぶ。）  ｢○○に帰ってきた。ただいま！思いっきり遊ぼうっと。｣  ○○には、森が広がっている。  森にはいろいろな木や草が生え、鳥やセミの声がみちていた。  森と森との間には□□川が流れ、小さい魚が、ときどき白いハラをみせてキラリと光った。  マーちゃんは、この森の中で毎日走り回って遊んだ。  （マーちゃんは、行き：馬とび→帰り：側転）  マーちゃんが○○に来て一週間ほどたったある日。→台風の音  ｢大きな台風が森にきた、こわいな。｣  森はおこったようにゆれ、□□川はだく流となってあばれた。  鳥やセミも、どこかにすがたを消した。  テレビは、今年一番の強い台風だと伝えている。  マーちゃんは、早々とふとんに入った。  ゴーゴーと鳴りひびく、台風の音を聞きながら、プラタナス公園のおじいさんの顔を思いうかべた。  最初ははっきりしていたおじいさんのえがおが、しだいにぼんやりとしていく。  ｢ねむたくなってきた、おやすみなさい。｣  （５人は、ぶたいそでに入る。）  コケコッコーの音　→　｢マーちゃん、朝だよ。台風も通りすぎて青く晴れ上がっているぞ。外を見てごらん。｣  ｢ほんとうだ。それに、森の一本一本の木には、それと同じぐらい大きな根が広がっているように見えるよ。｣  ｢ふしぎなことを言うね。まぼろしじゃないか。｣（ポーズ）  マーちゃんには、なぜか今、それがはっきりと見えるような気がする。だから強い風がふいてもかんたんにはたおれないし、森もくずれたりしないのだ。一本一本の木とその根が、ずっと昔から森全体を守り、○○の家を守ってきたのだ。  （まくをしめる）  →マットをのけて指揮台の用意  →衣装に、着替える  （まくをあけて、新学期がスタート）  プラタナスの木がなくなっているっていううわさを聞いたよ。  えっー、本当？  お父さんのふるさとの○○が、台風にあったんだ。当然だけど、このプラタナス公園も台風におそわれて、プラタナスの木がたおれたらしいよ。  見に行ってみよう。  レッツ（ｱﾗﾏちゃん）。　ゴー（４人で）  切りかぶだけをのこして、プラタナスの木が消えている（ポーズ）  根は、ほられてはいないみたいだ。でも残った根はきっとこまっているんだろうね。  （かたを落として、だまっている。）  ｱﾗﾏちゃんが口ぐせを言わないでだまっている。だいじょうぶ  プラタナスの切りかぶの上に、立ってみて。  何か聞こえたよ。  何にも聞こえないよな。(三人)  プラタナスの切りかぶの上に、立ってみて。（ジェスチャー）  （マーちゃんが、切りかぶの上に立つ）  マーちゃんは、何をしているんだ？  （後ろから、そっと登場する。）  三人も、切り株に立ってはどうかの。  あらま。（ポーズ）  おじいさん、いつの間にいたの？びっくりした。  おいでよ。なんだか、根に支えられているみたいだよ。  ぼくが真ん中にたって、みきになるよ。  わたしたちは、枝になるわ。  （４人は両手を広げる。おじいさんと木の妖精は、支える。）  プラタナスは切りかぶだけになった。  でも、ぼくたちのプラタナス公園は変わらない。  春になれば、プラタナスもめを出すだろう。  今日、おじいさんにも会えてうれしかったな。  きれいな青空が広がっているよ。  よーし。これからはみんなが、みきや枝や葉っぱのかわりだ。 | くつ  ベンチ  プラタナスの木  ボール  すね当て  マット  かさ  ベンチ  ボール  プラタナスの木  水とう  マット  さか立ちのペア  ・  ・  ・  １夕日がせ中をおしてくる  レンコン  バット  ２フラダンスの曲  フラ  うでわ  山の絵  川の絵  まくをしめる  まくをあける  ３台風の効果音  マット  ４コケコッコーの音  まくをしめる  カーテンを閉める  指揮台  ５新学期の効果音  ↓  まくをあける  指揮台  ポーズ  　①  ポーズ  　②  ポーズ  　③ |